

デジタルアーカイブ学会 2025 年度 通信による総会

ご意見と回答

2025 年 6 月 27 日

デジタルアーカイブ学会理事会

● 会費の改定について

- 学会費改訂に関しては相見積もりを取ったのか。プロセスを示さないでいきなり議案に挙げるのは手続的に不相当ではないか。
- 会費の改定について詳しい説明が必要である。
- 会費改定に反対ということでは必ずしもないが、値上げする金額の算定根拠が示されていないと思う。

回答

会費改定の根拠については、理事会での説明内容をまとめた資料を添付しましたので、ご参照ください。安定した学会運営のために必要な措置であることをご理解いただけますよう、お願いします。学会の規模も拡大してきたため、今後、学会の運営方針を広く会員に理解いただく方法を工夫してゆきます。

- シニア会費を設けている学会がある。ぜひご一考されたい。
- 学会誌への掲載料について、学生会員には減免措置を設けてもよいのではないか。特に人文社会系の学生は掲載料に使えるような研究費を有していない場合も少なくないと考えられる。

回答

ご提案として承りました。それぞれ必要性、実現可能性について検討いたします。

会費改定に関する説明資料

1. 学会運営に関する費用は増加している

表1は、会員に関する事務を執行し、学会誌を刊行し、研究大会・シンポジウム・各部会の研究会などの広報を行うという、学会としてもっとも基本的な業務に関する費用の概算について、2024年度の決算と2025年度の予算から抜き出して示したものです。2025年度には、会員数の増加等の要素により会員管理事務、会計事務の委託先に支払う委託費が大幅な増額となり、この増額分を調達する必要があります。また、学会創設以来、事務局業務を分担してきた東京大学大学院の寄附講座が2024年度で終了し、今後この機能を補うための費用増も見込まれるところです。

2. 現行の会費水準では、学会運営の基礎的な費用をまかなう収入が得られていない

現在の会員数から見込まれる会費収入は、表2に示すとおりで、現行の場合、約4,700千円余りとなります。実際には当年度中の未納が一定数あるので、実収入はこれより少なくなります。表に納入率90%で金額を併記しましたが、2024年度の実績も4,390千円程度です。

この額は、表1の2024年度の費用実績4,510千円を下回っており、基本的な業務だけに絞っても収支が償わず、広告料や賛助金、研究大会参加費など年度により変動する収入を一部繰り込んだ状態になっています。これは、学会の安定的な活動という面からは望ましくありません。

この点から、一定の割合で会費の改定が必要です。昨今の物価、人件費の高騰を考慮すると、今後委託費、印刷費、郵送料などの費用のさらなる増加が見込まれるため、2026年度から表2に示した内容での会費改定により、中期的に安定した学会運営を図りたいと考えます。

表 1. 学会運営に関する基礎的費用の増加（概算）

	2024 年度実績	2025 年度予算	増加
学会誌刊行費用	3,000 千円	3,000 千円	
広報費用（WEB、ML 管理等）	330 千円	330 千円	
事務費用（会員、会計管理等）	1,180 千円	1,750 千円	570 千円（会員、会計管理委託費増）
小計	4,510 千円	5,080 千円	

表 2. 会費改定による収入見込み（概算）

	会員数	現行	収入額	改定	収入見込
正会員	700	6,000 円	4,200 千円	8,000 円	5,600 千円
学生会員	50	1,500 円	75 千円	1,500 円	75 千円
賛助会員	50	10,000 円	500 千円	12,000 円	600 千円
計（納入 100%）			4,775 千円		6,275 千円
（納入 90%）			4,297 千円		5,674 千円